

平成28年度第9回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要

開催日時	平成 29 年 3 月 13 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、伊藤、浅野、清水、坂(敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	中村 毅
研究名	入浴の食欲、深部体温、血中グレリン濃度への影響についての検討(予備研究)
研究内容 要旨	高齢化、認知症患者の増加とともにフレイル、サルコペニアといった栄養不良に関する問題がある一方、過食による生活習慣病の増加が問題となっている。日常生活習慣である入浴による深部体温変動が食欲、食欲関連ホルモンへ与える影響を検討する。
審議結果	承認
参考	研究計画の軽微な変更であり、書類審議により承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	水野 圭祐
研究名	コミュニティプール利用者におけるE-SASと体組成の関係について
研究内容 要旨	近年の介護予防には運動機能向上だけでなく、心理社会的側面の充実も必要であると考え。そこで運動機能面並びに心理社会面を総合的に評価できる指標としてのE-SASを用いて現状を把握し、今後の介護予防事業における具体的介入の基礎情報になりえる可能性を明らかにすることとした。
審議結果	承認
参考	研究計画の軽微な変更であり、書類審議により承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	山中 元樹
研究名	当院入院・通院患者に対する支援歩行機ACSIVEの使用効果
研究内容 要旨	アクシブは、その適用として脳卒中片麻痺患者や歩行力が弱った高齢者としているが筋力や麻痺の機能など具体的な身体機能は提示していないのが現状である。本研究では歩行機能の低下した患者に対してアクシブを使用することで身体機能にどのような効果があるかを検証するとともに、より詳細な適応を明らかにすることを目的とした。
審議結果	承認
参考	研究計画の軽微な変更であり、書類審議により承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	川合 圭成
研究名	物忘れ外来受診者の診断病名の変化に関する研究
研究内容 要旨	初期の認知症の診断は容易ではなく、専門医が経過を見る中で、その診断病名を変更していることがあると思われるが、その実態はあまり調査されていない。認知症が疑われる症状を主訴とする患者に関して、後方視的に診療録から診断病名の変更の有無を調べ、診断病変の変更があった患者に関しては、診断の変化の時期、原因、変化前後の病名等を調査する。
審議結果	承認
参考	侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものと考えられたので、書類審議により承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	水谷 祐哉
研究名	コミュニティプールの利用が地域高齢者の健康と閉じこもり予防に及ぼす影響
研究内容 要旨	当院におけるおけるコミュニティプールは要介護状態の予防と改善を目的に運動プログラムを中心に行っている。また最近の利用者が定着し、利用者間でコミュニティが形成されてきている。利用者間で友人関係を作り、プール以外の時間にも交流を持つ利用者も少なくない。そのため、コミュニティプールは運動機能の改善だけでなく、引きこもりや社会的孤立の予防にも有効である可能性がある。今回、コミュニティプールの利用経験者を対象に、コミュニティプールの社会的孤立や、閉じこもり予防としての効果を検証する。
審議結果	承認
参考	侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものと考えられたので、書類審議により承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	葛西 俊弘
研究名	メディカルサポートが高校野球選手の身体機能・障害予防知識に与える影響
研究内容 要旨	過去1年間に渡り3ヵ月に1回の頻度で高校野球選手のメディカルサポートを行った際に得られたデータを使用し、メディカルサポート開始時と1年後で高校野球選手のスポーツ障害の有無、身体機能、障害予防に対する意識にどのような変化を与えるのか調査したい。
審議結果	条件付承認
意見	書類審議では結論が得られず、委員会を開催して審議を行った。 将来研究に用いる可能性があることを説明せず得られたデータを用いて行う研究ではあるが、研究計画を公表することを条件に承認とした。 年齢、身長、体重は研究に用いないので、公表文書の「研究の方法」から削除する。
新規研究計画の審議	
申請者	川合 圭成
研究名	視線を用いた認知機能および意思表示能力に関する研究
研究内容 要旨	各種神経疾患により認知機能が低下し、意思表示がはっきり見られない患者を対象に、アイトラッカー(眼球運動計測装置)を使用して、コンピューターモニターや紙面に掲示された視覚刺激に対する眼球の動きを、非接触的に取得し、脳の残在機能を評価する。
審議結果	承認
意見	特になし。